

分 野	授業科目	単位 (時間)	進 度	担 当	
専門基礎分野	臨床薬理学	1 (30)	1年後期	横田 崇 実務経験あり	
科 目 目 的	薬物の薬理作用と人体への作用・副作用を理解し、薬物療法時の治療効果の観察や副作用を早期に発見し、安全に対応できるための基礎知識を理解する。				
科 目 目 標	1. 治療薬の生体に対する作用や薬理作用の機序、副作用について系統的に把握し、薬物療法に対する基礎知識を習得する。 2. 主要な治療薬の作用機序、薬理作用、副作用、予薬に関する留意点などの知識や技術を習得し、臨床での看護の展開に活かす。				
単 元 名	教 育 内 容	時間	教育方法	留意点	
1. 薬理学の総論	1) 薬物治療の目指すもの 2) 薬はどのように作用するのか 3) 薬はどのように体を巡っていくのか 4) 薬効に影響する因子 5) 薬物の有害作用はなぜ起こるのか 6) 薬の管理と新薬の誕生	6	講義	視聴覚教材（イラスト、図表）を活用し、臨床的な内容の理解を促進し、疾患、看護の知識の体系化、深化に役立つようにする。 特に倍算・濃度・用量の計算力が弱いと思われるので、実際に演習して身につけたい。	
2. 薬理学各論		22	講義		
1) 中枢神経に作用する薬物	①中枢神経の働きと薬物 ②全身麻酔薬 ③睡眠薬・抗不安薬 ④抗精神病薬 ⑤抗うつ薬 ⑥パーキンソン症候群 ⑦抗てんかん薬 ⑧麻酔薬性鎮痛薬				
2) 末梢での神経活動に作用する薬物	①神経による情報伝達 ②自律神経と薬の作用 ③交感神経作用薬 ④副交感神経作用薬 ⑤筋弛緩薬				
3) 心臓・血管系に作用する薬物	①高血圧薬 ②狭心症治療薬 ③うつ血性心不全治療薬 ④抗不整脈薬 ⑤利尿薬 ⑥脂質異常症治療薬 ⑦血液に作用する薬物（ア.貧血治療薬 イ.造血因子の臨床応用 ウ.血液悪性腫瘍治療薬 エ.抗血液凝固薬 オ.血栓溶解薬および抗血小板薬 カ.止血薬）				
4) 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物	①呼吸器系に作用する薬物（ア.気管支喘息治療薬 イ.鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬） ②消化器系に作用する薬物（ア.消化性潰瘍治療薬 イ.健胃・消化管運動促進薬 ウ.制吐薬 エ.下痢と止痢薬 オ.潰瘍性大腸炎治療薬・クローン病治療薬 カ.駆虫薬） ③生殖器に作用する薬物				
5) 抗感染症薬	①ホルモン及びホルモン拮抗薬				
6) 物質代謝に作用する薬物	（ア.糖尿病治療薬 イ.甲状腺疾患治療薬 ウ.下垂体ホルモン エ.骨粗鬆症治療薬） ②治療薬としてのビタミン（ア.脂溶性ビタミン イ.水溶性ビタミン）				
7) 抗がん薬	①抗ヒスタミン薬とアレルギー薬 ②抗炎症薬 ③関節リウマチ治療薬 ④痛風・高尿酸血症治療薬 ⑤偏頭痛治療薬				
8) 抗アレルギー・抗炎症薬					
9) 免疫治療薬・皮膚科用薬・眼科用薬					
10) 漢方薬・消毒薬					
11) 救急の際に使用される薬物					
3. まとめと試験					
テキスト／その他の教材	系統看護学講座 「薬理学」（医学書院）				
評 価 方 法	筆記試験 100 点で評価する				